

甲状腺外科草子 93

本好きの DNA：A・デュマ

杉野圭三

本の好きな一家であった。両親も兄も本好きで家中に本があふれていた。マンガ以外の本に関しては、小遣いと別計算で自由に好きな本を購入でき有難いことであった。

これまで読んだ小説から「最も好きな小説家は？」と問われればまずアレクサンドル・デュマ(大デュマ, Alexandre Dumas, 1802-1870)を挙げる。デュマの祖父は侯爵で祖母は黒人女性とされる。父トマ＝アレクサンドル・デュマ(1762-1806)はフランス陸軍で将軍となったがナポレオンのエジプト遠征を批判しナポレオンとの関係が悪化し、死亡後に残された妻と子には収入がなくなり困窮したと伝わる。



大デュマ



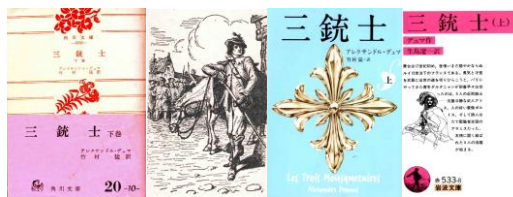
父のデュマ将軍



息子の小デュマ

デュマは、演劇から出発して歴史ドラマを書き、「三銃士」(1844)、「モンテ・クリスト伯」(1844-1846)などの歴史小説が大評判となり一世を風靡することとなった。

個人的に大好きな小説の第一位は「モンテ・クリスト伯」だが、以前に「甲状腺外科草子 15：名作と好きな本の狭間で」でも取り上げたので今回は省略する。次に高く評価されるのは「三銃士」であろう。



角川文庫(S41) 同挿絵 角川版(R5) 岩波版(R5)

田舎からパリに出てきた貧乏貴族の息子である主人公ダルタニャンと銃士隊仲間であるアトス、アラミス、ポルトスの冒険活劇は

世界的な大ベストセラーとなった。

当時の蔵書(角川文庫、昭和41年出版)は60年ものでボロボロになり、最近新たに(角川、岩波文庫)購入したが、旧版に掲載されていた趣のある挿絵は省略され残念である！



三銃士(1948) 同(1973) 同(1993) 仮面の男(1998)

三銃士関連の映画やドラマは無数にあり、1948年の映画にはジーン・ケリーも出演している。デュマは三銃士の大ヒットにより、続編の『二十年後』、『ブラジロンヌ子爵』の三部作を執筆、『鉄仮面』はその一部である。この長い物語は、講談社から「グルタニヤン物語」として1975年に全作が出版されたが、以後絶版となった。しかし、最近「復刊ドットコム」から出版が再開されたようである。



二十年後 ブラジロンヌ子爵 鉄仮面

デュマはその他にも「黒いチューリップ」や「王妃の首飾り」、「マリー・アントワネット(赤い館の騎士)」など多数の小説を書いているが評価は今一つである。



マリー・アントワネット 黒いチューリップ 王妃の首飾り

「マリー・アントワネット」は父の蔵書で昭和32年出版である。我が一族のDNAにより選ばれたこれらの本が、将来子孫に捨てられない様に注意が必要かもしれない。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年3月1日